

NDL-OPACの活用

国立国会図書館のNDL-OPACのサービスは、書誌データを日本中の公共図書館、学校図書館が無償で利用できるもので、データは標準形式、引用形式、MARC形式など6種類の形式で提供されます。

学校図書館などの小規模図書館にとって大変価値あるサービスです。

しかし、問題は標準形式やMARC形式などのデータをどのようにして自館のシステムに取り込むかが難題になります。一般的なテキスト形式であるCSV形式やタブ区切り形式なら汎用ソフトウェアでも簡単に取り込みもできますが、NDL-OPACのデータは特殊なタグのもとにデータが配列されていて通常に取り込むことができないからです。

注1

NDL = Nasitonal Diet Library
(国立国会図書館)

OPAC = Online Public Access Catalog
(オンライン蔵書目録)

MARC = MACHine-Readable Cataloging
(機械可読目録)

NDLコンバータ

帝塚山学院泉ヶ丘中学校高等学校図書館（および帝塚山学院中学校高等学校図書館）の取り組みを紹介します。2校は共通のシステム「図書館トータルシステム桐図(Kiritto)」を活用しています。このシステムに標準形式のデータを取り込むためのデータコンバータ（NDLコンバータ）を業者（ケーカイ）に依頼して開発してもらいました。

データ変換・取り込み手順

桐図(Kiritto)のプログラムにNDLコンバータを外部プログラムとして組み込む

↓

NDL-OPACによりダウンロードした標準形式データ (SHIFT-JIS/ndl.txt)

データ間の空白行に + プラス記号を区切り記号として付与

秀丸エディターを使用すれば一括入力できる

↓

テキスト形式のひとつでK3形式に変換

↓

K3データを桐図 (Kiritto) に取り込む

以上で完了

注2

K3形式は管理工学が提唱しているテキスト形式で、CSV形式とよく似ている。拡張子をCSVと変更してもそのまま取り込むことができる。

NDLコンバータのオプションタグ

[要旨]	要旨欄に取り込むことができる
[目次]	内容欄に取り込むことができる
特記	備考欄に取り込むことができる
注記	一般注記欄に取り込むことができる

これらのタグを用いると、任意のデータも取り込むことができる。

別タイトル自動生成機能

また、書名などに句読点やカッコなど記号類が存在するときは、一般注記欄にそれらの記号類を外した形で、別タイトル: として自動的に生成される。(これは記号を意識しないで検索できるので非常に有効に働く)

NDLコンバータを汎用ソフトウェアで活用

NDLコンバータで得られたデータは、ワークファイルを介して様々なソフトウェアで活用が可能になる。データを一旦出力された順番でワークファイルに受け入れる。次に自館のシステムに、必要な項目に必要なデータを取り込めばOKです。

K3形式(拡張子がk3)は、拡張子をCSVと変更しても取り込み可能なので、様々な汎用データベースソフトウェアなどで活用が可能となる。